

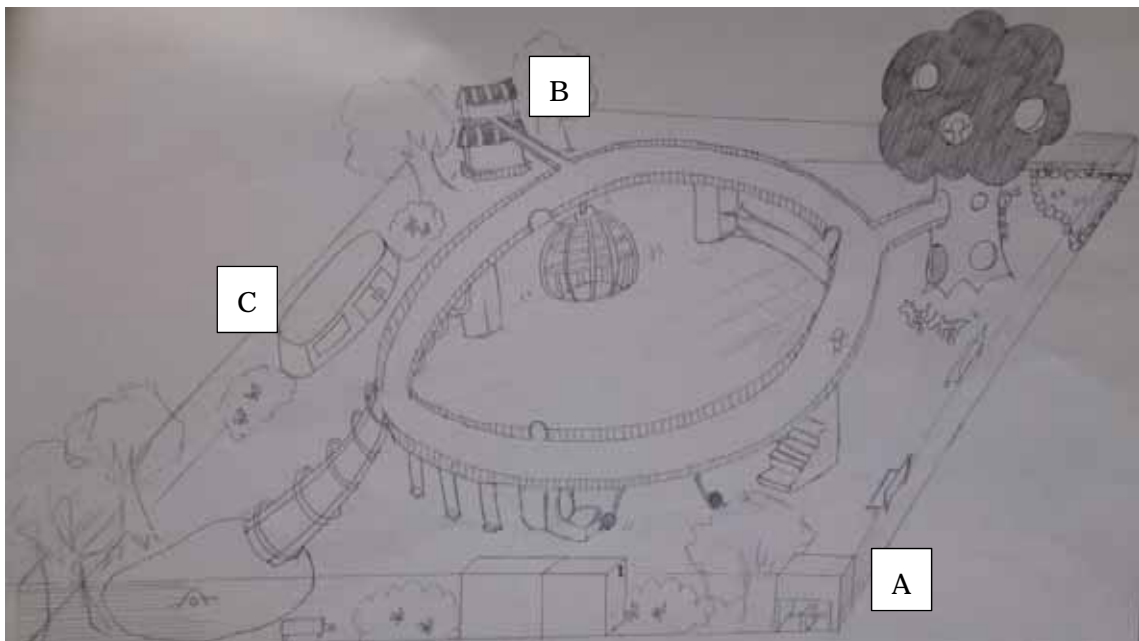
会員制による安全・快適な公園づくり

公園は昔から、子どもたちの遊び場であり、保護者同士の交流の場でありました。しかし、子どもを一人で遊ばせるときに（もし保護者の監視下であったとしても）、交通事故などの不慮の事故、不審者との遭遇など、保護者にとっての不安事は絶えません。また、保護者にとっても公園がもっと快適であれば、子どもとともに公園に足を運びやすいと思います。

そこで、それらの問題を解決するために 3 つのポイントとともに会員制の公園を提案します。

【3つのポイント】

- ① 会員制
- ② 保護者にとっての快適空間
- ③ 子どもの好奇心をくすぐる遊具

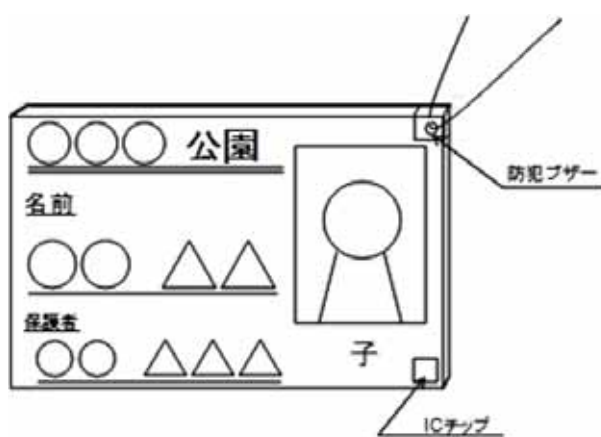


公園イメージ図

① 会員制

まず、この公園にはゲートがついており(公園イメージ図-A), 入場のための会員カードは、必ず親子揃っての申請が必要です。カード自体には顔写真と名前などの簡単な情報のみが記入されており、内部の IC チップに住所や電話番号などの個人情報が登録されています。公園内に設置されている機械(子どもに親しみやすい可愛らしいデザイン)にカードを通すことで、送迎のお願いや保護者への電話、登録情報の確認等ができます。子どものカードには防犯ブザーがついており不審者対策にもなっています。

また、小さな施設で子どもを預かっている託児所などと連携し、利用者の少ない平日の時間に公園を開放することで、よい関係にもなれるでしょう。



会員カード (子ども用)



カードを通す機械

(顔の部分が画面になっている・受話器はキャラクターの手をイメージ)

② 保護者にとっての快適空間

公園内には 1 階部分がベビールームで 2 階部分が公園全体を見渡せる簡単なカフェが備え付けられている建物があります(公園イメージ図-B)。ベビールームはトイレと授乳スペースも設置している全面鏡張りになっており、安全な空間で乳児の好奇心を外に向けることができます。カフェでは保護者はゆったりしながら子どもたちが遊んでいる様子を見ることができます。さらに、カフェ内にはちょっとした本棚があり、園内であれば好きなところで読書することができます。カフェと遊歩道はつながっており、子どもがすぐに親の元へ行けるようにしています。



③ 子どもの好奇心をくすぐる遊具

施設内には管理小屋があり管理人さんがボールなどの貸出しを行います。ボールにはセンサーが内臓されており、公園外にボールが出ると音が出る仕組みになっているので、紛失を防ぐことができます。また、公園内の遊具は都内にあるふじ幼稚園を参考にしました。自分が子どもだったら高いところを走り回れたら楽しいだろうという考えに至ったとき、テレビで見たふじ幼稚園を思い出したため、公園の遊具の参考としました。遊歩道の下にはブランコや鉄棒、滑り台などの遊具が取り付けられており、空間を有効利用しました。



ふじ幼稚園